



日時	2026年9月13日 9:30						試合形式	90分+15分			
会場	さくらスタジアム						ピッチ状態	天然芝			
日本代表			1	0	1set	5	8	栃木シティユース			
				1	2set	2					
				0	3set	1					
警告・退場	3set	2set	1set	チーム合計			1set	2set	3set	警告・退場	
	1	8	2	11	シュート	22	14	7	1		
	0	5	8	13	GK	1	1	0	0		
	0	3	0	3	CK	8	4	3	1		
	3	5	1	9	直接FK	8	6	1	1		
	0	4	2	6	間接FK	2	1	1	0		
	0	4	2	6	(オフサイド)	2	1	1	0		
	0	0	0	0	PK	0	0	0	0		

【日本】



【栃木シティユース】



【得点経過】

1 s e t

2 4 分[栃木シティ]

2 8 分[栃木シティ]

3 6 分[栃木シティ]

3 8 分[栃木シティ]

4 8 分[栃木シティ]

2 s e t

6 4 分[日本]大野

7 5 分[栃木シティ]

7 7 分[栃木シティ]

3 s e t

1 0 分[栃木シティ]

【交代】

1 s e t

4 0 分[日本] IN 小才 ⇔ OUT 奥田

2 s e t

4 5 分[日本] IN 幾島 ⇔ OUT 大久保

 IN 福原 ⇔ OUT 佐藤

6 0 分[栃木シティ]IN NO.21 ⇔ OUT NO.41

 IN NO.11 ⇔ OUT NO.44

 IN NO.15 ⇔ OUT NO.6

 IN NO.18 ⇔ OUT NO.40

 IN NO.13 ⇔ OUT NO.34

 IN NO.27 ⇔ OUT NO.8

 IN NO.33 ⇔ OUT NO.10

6 2 分[日本] IN 佐藤 ⇔ OUT 吉川

3 s e t

5 分[日本] IN 下鶴 ⇔ OUT 横井

9 分[日本] IN 大久保 ⇔ OUT 福原

 IN 奥田 ⇔ OUT 越智

ゲームコンセプト

全員攻撃/全員守備、良い守備から攻撃へ、90分 total の戦い

攻撃コンセプト

- ・中央突破(2人はDF間突破+3人コンビネーション)
- ・サイド崩し(ソロ)(コンビネーション)(ニアゾーン)
→ニア・プルバック・ファー
- ・ビルドアップ
→少ないタッチ+パススピード(サイドチェンジ・意図的な緩急)+サポート

守備コンセプト

- ・1vs1で絶対に負けない
- ・前線、中盤の守備、ゴール前の守備(PAに入らない・2ブロックコントロール)
- ・クロス対応(同一視・人をつかまえる・ボールに寄せる・GKと連携)
- ・プレスバック

切り替え

- ・【守→攻】カウンター、1タッチプレー、直線(逆サイド)に飛び出す、インターセプトパス
- ・【攻→守】状況に応じ「ゴールを守る」が優先

ゲーム内容

日本は、1-4-2-3-1のシステムで試合をスタートした。攻撃では、前線の推進力を生かし、良い守備から時間をかけずにゴールを目指すことを狙いとした。守備では、1-4-4-2のブロックを形成し、前線・中盤・ゴール前の各ゾーンにおける守備の目的をチーム全体で共有して試合に入った。

前半は、栃木シティユースのビルドアップに対する守備の連携に課題が見られた。ボール保持者へのアプローチと周囲の選手との連携が不足し、マークがずれたり、相手にスペースを与えたりする場面が生じ、相手に前進を許す展開となった。

栃木シティユースは、ボール保持者を積極的に追い越し、前への意識を強く持って攻撃を展開してきた。複数の選手が攻撃に関わりながら人数をかけて前進し、日本のゴールを継続的に脅かした。守備面では、積極的なハイプレスを仕掛け、日本は自陣からのビルドアップで苦戦する場面が多く見られた。

24分、ゴール前への斜めのボールに対してDF陣が揺さぶられ、折り返しへの対応が遅れたところを14番に押し込まれ、先制点を許した。28分には、自陣でのビルドアップのミスからボールを失い、栃木シティユースの6番にゴールを奪われ、2点目を許した。36分には、左サイドからのクロスボールをゴール前で押し込まれ、3失点目を喫した。さらに38分、左サイドを崩されてクロスボールを許し、4失点目となった。前半終了間際には中央を崩されて5失点目を許し、前半を0-5で終えた。

後半は、1-3-4-2-1へシステムを変更して臨んだ。前半に見られた守備面の課題を修正し、後半は相手の攻撃に対して対応できる場面が増えた。攻撃では、ボールを保持する時間を確保しながら選手同士の連携を図り、落ち着いてボールを動かすことができた。サイドと中央を組み合わせながら、複数のチャンスを作ることができた。

64分、コーナーキックのこぼれ球に対して結城が素早く反応し、ヘディングで下鶴へつなぐ。下鶴がクロスボールを入れ、大野が合わせてゴールを決めた。

しかし、75分には左サイドのポケットに侵入され、マイナス方向へのクロスボールからゴールを許し、失点した。さらに77分、中盤でボールを奪われてカウンターを受けると、GKのポジショニングを突かれ、ペナルティ

エリア外から栃木シティユースの 18 番にゴールを決められた。その後、スコアは動かず、前後半 90 分を通して 1-7 で試合を終えた。

後半は、システム変更によって守備面での対応に改善が見られた。また、攻撃ではボールを保持する時間を作り、選手間の連携から複数のチャンスを生み出すことができた。一方で、サイドのポケットへの侵入からのクロスへの対応や、中盤でボールを失った後のカウンターへの対応など、失点につながった場面については課題が残った。

試合を通して、前半は相手のプレッシャーや攻撃に対する守備の連携、自陣からのビルドアップに課題が見られた。一方、後半はシステムを変更することで守備面の対応に改善が見られ、攻撃面でもボールを保持する時間を作り、選手間の連携からチャンスを生み出すことができた。